

# サステナビリティ経営の実現に向けて

## 「自動車リース会社」から「モビリティ・ソリューション・プロバイダー」への進化

### 総合モビリティサービスの先駆者へ

CASE(Connected:コネクテッド、Autonomous:自動運転、Shared&Services:シェアリング、Electric:電動化)といわれる技術革新とともに、自動車業界は100年に一度の大変革期にあるといわれています。当社は、技術革新や「所有」から「使用」へというシェアリングエコノミーの概念が浸透する中で、お客さまのクルマの使い方や動き方に着目した新たな価値を創造し、提供していく必要があると考えています。

このような環境変化にいち早く対応するため、当社では

将来像を「自動車リース会社」から「モビリティ・ソリューション・プロバイダー」へと定義し直し、「新規ビジネスの創出」と「サービスの領域拡大」の両輪で、総合モビリティサービスの先駆者を目指しています。その一環として、2016年度より、若手や中堅社員も参加する全社横断の「モビリティ・ソリューション開発プロジェクト」を組成しました。これまでの経験や英知を結集し、AIやIoTを駆使して新たなサービスを企画・開発する試みです。

### 社会課題の解決と持続可能なビジネスの両立を

#### モビリティ・ソリューション・プロバイダー

『オートサービス』から『モビリティサービス』への進化

新規ビジネス創出

サービスの領域拡大

社用車管理の高度化  
(データを活用した新サービス)

スムーズな移動体験の提供  
(モビリティサービス横断での検索・予約)



『総合モビリティサービス』の先駆者を目指す

RMS=Risk Management Solution(リスクマネジメントソリューション)

当社では、近い将来の全車コネクテッド化を目指し、車両のビッグデータを活用した新サービスで、社用車管理の高度化を図っていきます。また、法人のお客さまにとって、リースの社用車は移動の一手段にすぎず、レンタカーやタクシー、鉄道、バスとさまざまな選択肢があります。そのような中で、モビリティの最適化によりスムーズな移動体験を提案できれば、お客さまの満足度向上につながるとともに、働きがいと経済成長の実現、環境問題など、社会課題の解決と持続可能なビジネスの両立ができると考えています。

お客さまが不便を感じていること、面倒な作業になっていることをきちんと理解することが重要であるという視点から、当社は今後もお客さまのニーズに即したモビリティサービスを開発していきます。2019年2月には、お客さまのニーズをとらえた、新たなモビリティサービスの第1弾として、企業と従業員が社用車を公私に分けてシェアリングできるサービス「Scash(スカッシュ)」をリリースしました。

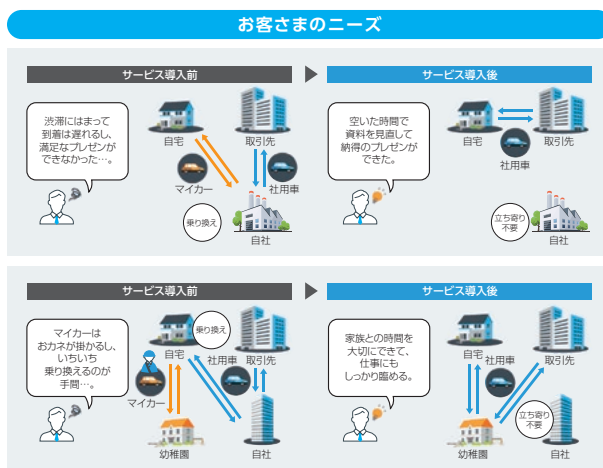
## 社用車をプライベートにも活用させる画期的なカーシェアサービス「Scash(スカッシュ)」



### 「Scash」でムダなコストと時間を削減

「通勤やプライベートはマイカー、仕事は社用車など、1人で2台のクルマを使い分ける場合があり、企業と従業員双方でクルマの取得・維持費が発生することや、都度乗り換えるのが面倒で、乗り換え時間のムダが発生している」という、お客さまのニーズがありました。

一方で社用車の私用は、公私の区分が難しく、燃料代等の費用の精算、事故の責任の区分などに課題があり、これまでは車両を企業と従業員との間でシェアすることは難しいとされていましたが、これを「Scash」で実現できるようにしました。



### エコフレンドリー効果や働き方改革にも寄与

「Scash」の利用は、社用車・マイカーの乗り換え回避、乗り換え時間削減による従業員の余裕時間創出や、走行距離削減によるCO<sub>2</sub>排出量抑制、渋滞解消にもつながります。また、福利厚生充実により、優秀な人材の維持・確保も可能となり、これまで曖昧だった公私区分を精緻化することで、リスク管理・CSRの強化もできると考えています。

このように、「Scash」はSDGs(3ページ参照)に掲げられ

ている「8. 働きがいも経済成長も」や「13. 気候変動に具体的な対策を」「15. 陸の豊かさも守ろう」といった社会課題に向き合うと同時に、お客さまに新たな価値を提供し、当社の新たなビジネスを展開できる商品です。

誰一人取り残されることのない持続可能な社会の実現に向けて、当社はこれからも商品・サービス開発に取り組んでいきます。